

令和3年度 武蔵野市地域自立支援協議会全体会（第2回）

グループディスカッション ワークシート

グループ名: D

【テーマ】「武蔵野市の地域課題の解決に向けた協働の在り方について
～新たな部会での活動を通して～」

テーマ 1-1：課題の共有

「各部会の活動報告を受けて」

- ・コロナ部会ではどういったことをやっていくかを決めるのに時間がかかった。Zoom に不慣れでうまく接続できず大変だった。話し合いは詰め始めていけるところまでいった。
- ・当事者部会は Zoom で参加しやすい反面利用の方法がわからない等参加できない人もいた。
- ・地域生活支援拠点部会はハイブリッドで行った。コロナ禍で地域がどのようにつながっていくか、Zoom だが紙の媒体を使用して話し合った。地域生活支援拠点って何だろうと理解するところから始まって、各地域の推しを探したり、どのような形がいいか話し合っていた。各部会で工夫していたのがわかった。
- ・各部会の報告を受けてイメージするところが住みやすい街づくり、生活の質を向上していく、生活しやすくしていくことではないかと思った。それを実現するには、関東バスの働きかけや外に向けていくことが、生活しやすさにつながっていくのではないかと思った。
- ・差別解消部会では関東バスの交流とポスター作製となった。障害者がバスを利用するにあたり、いいことも困っていることもあった。手紙はいいエピソードを掲載して、いい関係にしよう取り組みを始めている。バスを視点にする働きかけは良いと思った。
- ・バスについては、マイナスの話を聞くことが多く、プラスの話を聞くことがなかったため、良い機会になった。

テーマ 1-2：課題の共有

「武蔵野市の地域課題とはなんだろう」

- ・地域移行の勉強会をしていることが多い。地域移行のことを知っている人が少ないと思った。
- ・当事者部会で住まいの話があった。身体的機能や等級のみで判断されてサービスを決定されるのは難しいとあったが、密に連携を取ることが情報共有、情報交換が重要だと思った。当事者の話を聞くことが重要。
- ・等級や障害支援区分が合っていないことがあると思う。
- ・部会の中で話していて、当事者が緊急と思ったときに自分の困ったことをどこが受け止めてくれるか、何をしてくれるかがない。24 時間対応できるところがないと思うことが課題。
- ・社会資源としてあったらいいと思うのは、医療的ケア者（児）を受けてくれる日中活動先、行動障害のある人の活動の場があると思う。
- ・差別解消部会で、啓発ポスターを探したが、だれに向けて何を伝えたいのか、というそもそものところが難しいと思った。それも地域の課題と思った。
- ・地域移行する時にアパートを貸してくれない人が多い、家主に理解がない。家主さんとの理解を深めるのは課題ではないか。
- ・当事者部会では理解のある不動産業者が 2 か所あると出ていた。

テーマ2：目標設定

「テーマ1-2で共有した地域課題の解決に向けて、新たな部会での活動を通して活動できること・協力できることはなんだろう」

- ・事業所とかかわりあっていくことが大切ではないか。個々だったら夜も対応してくれるとか、各事業所の強みを共有することで、地域の課題解決に向けて行けるのではないか。親会でも発信できれば、生活のしずらさが解消されていくのではないか。
- ・事業所の情報交換ができればいいのではないか。自分が属している部会から広がるかもしれないが、不動産業者とのつながりの話があったが、福祉サービス以外との関りをどうしていくか、インフォーマルのつながりをどう作っていくかを考えるのも一つではないか。
- ・困ったら自立支援協議会に相談すればいいと言っていたが、このような事業所間のやり取りなどを通していけばいいと思った。
- ・自分たちが今やっていることを共有することが大切だと思う。ここで話すことだけでも刺激になるので、横のつながりが増えると、利用者の支援でも横のつながりができるのではないかと思った。
- ・新しい制度的なものを作るのも一つだが、自分たちが取り組みをして行かないと、地域が変わっていかない部分もある。地域をどう変えていくのかということも考えていきたい。私たちも不動産業者の不安を軽減させていくことが大切ではないかと思う。
- ・知らないから怖いと言うこともあるのではないか。不安の払しょくには地域の交流ではないかと思う。
- ・部会や法人を超えて話をするのが少ないなかで、話ができてよかったと思う。
- ・武蔵野市の強みでもあり弱みでもあるのは、障害特性ごとになっていることだと思う。障害特性ごとになっており専門性があることが強みでもあり、障害特性が違くと苦手になるのが弱みになると思う。短時間でも関係者がつながっていくことが大切と思った。
- ・相談支援専門員の意見は重い。市内に精神科の入院先がないことも知らなかった。自立支援協議会に参加しないとわからなかったことがあった。当事者部会で今困っていることを解決することが難しい、もどかしい。交流が増えていくことがいいのではないか。
- ・地域移行部会のアンケートは来年度に調査の結果がわかるのが楽しみ。
- ・当事者部会はZoomになり、特に知的の人が会えなくなった。スマートフォンがない、Wi-Fiがないという人がいた。
- ・貧困家庭にある人は情報格差ということもあり、Zoomだからいいと言うわけではないのではと思った。